



こと言の葉 kotonoha

築館高等学校 図書館だより
発行：令和2年12月4日
文責：司書 佐藤

12月です。今年も残りわずかとなりました。今年はみなさんにとってどのような年だったでしょうか。新型コロナウイルスやアメリカの大統領選挙、異常気象など世界中に影響のある出来事がたくさん報道されています。私たちも今まででの生活を振り返り、自分ができることは何なのか、小さなことからでいいので考えていきましょう。

宮城県読書感想文コンクール部会長賞 受賞おめでとうございます

図書館だより9月号で校内読書感想文コンクールの結果についてお知らせしました。最優秀賞を受賞した作品が県審査の結果、部会長賞を受賞しました。おめでとうございます。受賞した感想文を紹介します。



空が青いから白をえらんだのです

宮城県読書感想文コンクール 部会長賞

「空が青いから白をえらんだのです ー奈良少年刑務所詩集ー」 寮 美千子 編 新潮社 出版

1年3組 菅原 海音

人はなぜ表現するのだろう。私たちには心がある。誰かに理解してほしい、共感してほしい。そんな思いが言葉になり、つぶやきに変わるのではないだろうか。私と同じ中高生だが、犯罪を犯し少年刑務所に服役している人達が、二千人ほどいる。彼らは受刑者と呼ばれる。私は、受刑者達の詩が綴られたこの一冊の本を興味深く、しかしどこか軽い軽蔑の気持ちも抱きながら読み始めた。

彼らは詩など書いたことはないだろう。奈良少年刑務所の受刑者達に、「社会性涵養プログラム」で童話や詩を使った情操教育をお願いされた作者。私は受刑者にどうしても凶悪、乱暴、粗暴といったイメージを抱いてしまう。しかし、彼らが紡ぐ言葉は真っ直ぐ私の心に染み込んできた。一番多かった作品は「オカン」「お母さん」「あなた」へ向けた詩。謝罪、感謝、伝えられなかった「大好き」という言葉。人には皆、弱さがある。弱いからこそ受容してくれる誰かを欲するのだ。一番受容してほしい存在が母親である点に、私は共感することができた。

彼らはすぐ詩の創作ができたわけではない。「金色」「銀色」「黒」など好きな色、夢、好きな物や自分について、難しい言葉は使わず、ただ真っすぐに言葉を選ぶことから創作活動は始まった。僕はあれが好き、私はその時こう思った。五十七編の詩は、彼らの偽りのない言葉だからこそ宝石のような輝きを放つ。詩に表現した思いは、そっと心の奥にしまっていた優しさ、葛藤や後悔など彼らの真実の姿だからだ。

なぜ彼らは、犯罪を犯してしまったのだろうか。自分自身の問題、そして家庭環境や周囲の人間関係にも問題があったのでは、と推察できる。生まれた時から悪という人間はいない。だが、自分の弱さを認めることができれば道を踏み外し、強盗、殺人、レイプなど凶悪犯罪へつながってしまう。

親がいない。いても虐待や暴力から逃れるため、貧困のため犯罪に手をそめた者。恵まれた家庭環境でも、学校や苦しい人間関係から逃げ出したいくなり十三歳、十五歳で薬物に手をそめてしまった受刑者もいる。彼らに共通していることは、自分の絶望や苦しみを誰かに分かってほしい、共感してほしいという思いだったのではないだろうか。孤独という暗闇に投げ出された少年達が、社会性涵養プログラムで弱さを認めること、

自分を表現すること、伝えることの大切さを学んだと、私は考えた。「こんなボクだけど」と表現しながらも、理解してほしい相手は、母親や家族に違いない。

芸術の力、詩の創作で自分を表現することを覚えた彼らは、人に共感することも覚えていく。青と赤が好きだと述べた詩に対して、「好きな色を、二つ聞けて良かった」、「二つも教えてもらってうれしかった」と感想が返ってきた。社会復帰のための社会性涵養プログラムは、人が人として生きていく上で表現すること、共感し共に生きることの大切さを改めて確認した場面でもある。

では、受刑者達の固く閉ざされた心を開くきっかけはどこにあったのか。六カ月で十八回、絵画、童話と詩、ソーシャル・スキル・トレーニングをプログラムとして体験するだけでなく、工場で様々な技術研修をする受刑者達。乾井教官が「思いを汲んで、寄り添い支え、手塩にかける」と語るように、本来は親や家族が与えるべき惜しみない愛情を受刑者達に注ぎ、見守る。家庭で味わえなかった温かさを、刑務所で「座」というチームを形成しながら生活することにより、心を開き、自分らしく生きようとする姿勢が形成される。「ぼくの夢は・・・」の続きが書けなかったF君は、父親に連れて行ってもらった競艇の選手になりたい、と夢を語る事ができた場面に私は涙を流した。

犯罪者と私、何が違うと聞かれたら答えに詰まってしまう。私が抱いていた軽い軽蔑は差別と呼ばれる偏見であったことに気付いた。受刑者の少年達も私も人間であることに変わりない。私は家族とご飯を食べ、毎日一緒に過ごしていることを当たり前と考えていた。その当たり前こそが本当の幸せなのだと、教えてくれたのはこの本だ。

出所後、日本の再犯率は七割と高い。私が最初抱いていた差別や偏見が高い壁となり、仕事になかなか就けない現状がある。働くとはお金を稼ぐだけでなく、社会や地域の人達に認めてもらうことでもある。自暴自棄になり、再犯という悪循環が生まれてしまうのだ。社会には、たくさんの色がある。受刑者も一人の人間であり、色という個性や良さを持っている。この本にあふれている人間らしさを受け入れる社会を作り、誰もが生きやすい支え合える社会にしていきたい。「空が青いから白をえらんだのです」という題名のように、私達の幸せや当たり前の日常が彼らにも存在し、前を見つめて歩んでいけるように。

※ 表彰は1月の全校集会で行います。

図書館前ホール展示

今年度も図書館前のホールに文化部さんの作品展示を行っています。現在は自然科学部さんが「生徒理科研究発表会」で発表した「ハスによる水質への影響」の資料や当日の様子などを展示しています。自分たちが住んでいる地域のことを良く知るのは大切なことです。本校の部活動がどんな活動をしているのかみなさんも見てみてください！



●あなたの今年の漢字は？●

12月12日は「漢字の日」です。毎年、今年を表現する漢字を清水寺で発表しています。あなたの今年一年を漢字で表すとしたら、どんな漢字を思い浮かべますか？振り返りながら考えてみましょう。清水寺で発表される漢字も考えてみてくださいね♪



私は「家」です。行事などが中止になり、休みも出かけず家に家族といることが多かったです。息子もオンライン授業です。来年は状況が変わって「変」になることを期待します！

家